

聞こえに関する啓発ブックレット作成事業計画書

1 事業の目的

聞こえの障害は非常に多く起こる障害であり、適切な治療により聞こえが回復することもあるが、回復が困難で聞こえが一層低下する例も多い。そのため、医療機関での相談・治療の充実が望まれ一方、聞こえの仕組みや補聴器・人工内耳・補聴援助システムの理解とその利用方法など、聞こえの回復（聴覚補償）についての聞こえに困っている人自身の努力が非常に重要となる。また、聞こえの低下は不完全なコミュニケーションによる人間関係の崩壊をもたらすため、手話・読話など新たなコミュニケーション手段の習得（コミュニケーション学習）が必要となる。一方、手話通訳・要約筆記などの人的支援の整備やテレビ字幕などの社会のインフラとしての文字情報の普及（情報保障）は進展しているが、聞こえに困っている人がこのような社会の仕組みを良く理解して十分に利用しているとはいえない状況にある。

本事業は、聞こえに困っている人が必要とする聴覚補償・コミュニケーション学習・情報保障についての分かりやすいブックレットを作成することで、聞こえない人自身が聞こえについての問題を自ら、また仲間と一緒に学ぶきっかけを提供し、自己の障害を受容して適切な社会の資源（医療機関、相談機関、当事者団体、各種講習会等）へアクセスする環境を作るとともに、聞こえに困っている人を取り巻く社会への聞こえの問題の理解を広めることを目的とする。

2 事業の内容

「聞こえに関する啓発ブックレット」の作成

100 ページ構成、3000 部印刷予定

（ブックレットの概要）

- ①聞こえについての理解（聞こえ仕組み、聞こえの病気、聞こえの障害）
- ②聞こえの回復を学ぶ（治療、相談の仕組みと利用）
- ③聴覚補償（補聴器、人工内耳、補聴援助システム）についての理解
- ④コミュニケーション学習（手話、読話など）のあらまし
- ⑤聞こえない人を取り巻く福祉の制度とコミュニケーション支援
- ⑥まとめ（聞こえない人が社会で生きていくために）

3. 事業実施による効果

当団体は現在年間 5 回程度地域で聞こえの啓発講座を開催している。その実績を踏まえて。作成したブックレットを活用して聞こえの啓発講座の内容の充実を図り、聞こえない人の自己啓発を促すと同時に、聞こえない人を取り巻く地域の人に対して聞こえの問題への理解を深めていく。また、地域の行政機関・社会福祉協議会、教育機関、医療機関、補聴器販売店等へのブックレットの頒布を行い、ブックレット利用を核とした各機関の連携を構築し、地域での「聞こえの啓発講座」、「聞こえについての相談会」の定期的な開催を実現していく。

4. 事業実施体制・計画

- 平成 26 年 4 月 ブックレット編集委員会（4 人予定）の立上げ
- 平成 26 年 5 月 ブックレット構成案の作成
- 平成 26 年 6 月 ブックレット構成、執筆者の決定
- 平成 26 年 7 月 執筆者への原稿依頼
- 平成 26 年 9 月 ブックレット原稿の検討、イラストの依頼
- 平成 26 年 10 月 ブックレット原稿の完成
- 平成 26 年 11 月 印刷・構成
- 平成 26 年 12 月 ブックレット完成
- 平成 27 年 1 月 関係者へのブックレット頒布
- 平成 27 年 2 月 ブックレット合評会の開催
- 平成 27 年 3 月 事業報告書の作成

5. 事業見積り

別紙